

平成 25 年度公民館運営審議会（第 4 回）

とき 平成 26 年 3 月 11 日(火)午後 2 時

ところ 貝塚市立中央公民館 講座室 3

出席委員：浮穴委員長、沼野副委員長、竹内委員、生長委員、武本委員、南村委員、加嶋委員、中野委員、関根委員、秋田委員、井上委員、大西委員

欠席委員：川崎委員、藤谷委員

出席職員：西野中央公民館長、大脇浜手地区公民館長、北野山手地区公民館長
稲田中央公民館長補佐

案件 1 貝塚公民館大会について

浮穴委員長：参加された方から感想をお願いします。まず公民館大会の実行委員長を務められた中野委員からお願いします。

中野委員：前日の大雪の影響を心配しましたが、当日は早くから準備の人がたくさん集まりました。オープニングのとき客席を見ると立ち見の人がいるぐらい満席で、6 月からの実行委員会が思い出されて実際涙が出ました。皆さんのお蔭でこのように開催できました。コーラスも石井山先生のお話もよかったです。信頼関係や絆が大切であることをひしひしと感じました。映像でみる公民館も感激しました。各分科会もそれぞれ特徴がありますが、地域に密着した公民館活動に参画していく思いを新たにしたのは、どこも同じだと思います。

大西委員：料理ボランティアとして賄も担当しました。若い方の協力もあり頼もしいと感じました。講師交流会では多くの方がクラブ員の世代交代の話を語り、興味深かったです。

井上委員：当日は午前中のみでの参加で失礼しましたが、びっくりするぐらい多数の参加があり、落語や漫才ではないところにあれだけ多数の人が集まるのは貝塚の文化水準の高さを示すものだと思います。石井山先生のお話は理路整然としていて頭脳明晰な方だと思いましたが、内容的には新たな発見はありませんでした。その後の堀内先生のトークの方に興味を覚えました。実は彼が岸和田市職員だった時から知っています。登壇された市民の方は公民館活動についてよく考えておられると思いました。

秋田委員：映像制作でも関わりました。公民館講座「くらしを撮る」で編集等を学んできてそれだけで終わるのがもったいなかったので、有志で集まり大会で流す映像を作ろうということになったのです。午前のパネルディスカッションでは第 4 分科会の

PR をしましたが、その前にまず自分自身の PR をすることが大切であると堀内先生から言われ、自分がなぜ公民館と関わるようになったのかを話しました。分科会では、7 人の方から公民館活動をきっかけに地域に出かけて行った過程を話してもらいました。その後質問をあまり引き出せず、報告だけで終わってしまったのが反省として残ります。実行委員会は最初 10 人程でスタートし、実行委員が世話人を呼び最終は 40～50 人の人が関わりました。日頃から公民館を利用されている方達の力が大きかったと思います。

関根委員：最初はどのような事がよくわからないながら、浜手公民館の利用者連絡会の役員として、各サークルの人に電話をして参加を要請しました。石井山先生のお話も分かりやすく、午後からもみんな残って分科会に参加しました。若いお母さんの子育てのお話から、かつて児童館で自分の子ども達が育った事を思い出しました。公民館に行ったらこんなに良い事があるんですよ、ということをもっともっと PR したら良いと思います。みなさんも来てよかったという感想でした。

加嶋委員：第 2 分科会のリレートークで「子育てネットワークの会」の活動について話をしました。公民館に長年通っていますが、まだまだ知らない人がたくさん公民館に来られているのだなと思いました。多くの人が公民館を必要とし、大事だと思っているのはすごい事です。私自身は実行委員ではありませんでしたが、職員だけがするのではなく、利用者がいっしょになって大会を作っているのもすごいと思いました。また、堀内先生が「思いやりの連鎖」という事を言われました。公民館で力をつけた人が地域で思いやりの輪を広げ、まだまだ知らない人とのつながりも作っていけるという話でした。

武本委員：たまたま大会の 2 週間前に同じ会場で、社会福祉協議会のボランティアフェスティバルがありました。それと比べた時、会場の案内、誘導に行き渡らないところを感じました。私の友人もそう言っていましたし、堀内先生も会場の位置が中々見つけられないようでした。午後は第 1 分科会に参加しました。4 人のパネラーの方のお話は良かったですが、そこに費やされる時間は長く、もっと参加者の中からもいろんな話を引っ張り出してほしかったと思いました。時間が足りないと感じました。余談ですが、55 年前に公民館の野外活動クラブでいっしょだった仲間 20 人に声をかけたところ 10 人ぐらいが参加し、分科会まで残ったのはもっと少なかったですが、その人たちは少ない時間の中でもよく発言したと思います。

沼野副委員長：私も実行委員でしたが、何よりも利用者、市民、職員から成る実行委員会形式でできたのが良かったです。以前にもお話しましたが、55 周年の時はすごく参加者が少なくて、「これではいけない。5 年後の 60 周年の時は素晴らしいものを」という強い思いがあったので、今回の大会が本当にたくさんの人が関わって、みんなの知恵と力を結集させて作り上げられたことをうれしく思います。4 つの分科会がありますが、どの分科会にも行きたいとみんなが思うような魅力満載のものでした。そ

れで DVD 上映会もまた開かれるようですが…ただし反省点もあります。それで今回で終わらずに 3 回目、4 回目と続けていきたいという意見もたくさん出ていました。次につなげられる大会であると思います。第 3 分科会の中で私は、公民館は単に習い事を安くできるところではなく、公民館運営審議会や専門職制度があること、教育委員会の制度も変えられようとしている社会情勢のことなどを話しました。会場の関係で難しいところもありましたが、アンケートを読むと伝えたいことがちゃんと伝わっているのがよくわかりました。全体の感想を読んだ時も、こんな感想を書ける市民ってすばらしいなと思いました。1 つだけ残念だったのは「講師交流会」が同日開催だったことで、講師の方にも分科会に入ってもらいたかったと思います。

北野館長：「講師交流会」についてはまた検討させていただきたいと思います。大会につきましては貝塚公民館の歴史というか、綿綿と公民館をつないできた先輩方の努力がしのばれるものでした。いろんなところに公民館の学びの素晴らしさが広がっていくと思います。私たちも感激しましたし、今後の方向性について力強い応援をいただけたと思っています。

大脇館長：皆さんがお忙しい中、悩みながら知恵を出し合って、本当によくここまで形になったなと思います。こういう様子を講師の方にも見ていただきたいという気持ちで同じ日程にしたという事はあるのですが、午後からの分科会に講師の方が参加できなくなったことについては、一考の余地があると思っています。当日は西野、北野館長が講師交流会を担当し、私は第 4 分科会に参加しました。本当に大勢の方が参加され、7 人の発表者のあふれる思いが伝わりました。関わり方はそれぞれ違いますが、こういう風に地域とつながれるのだというヒントをいっぱいもらったと思います。先ほども言われていたように、発表があまりにたくさんで、参加者の思いをきけなかったのが残念でしたが、とにかくよくやりきった大会だったなと思います。

稲田補佐：準備段階では講師交流会に携わり、他の職員のように分科会を担当しませんが、当日は午前の全体会と第 3 分科会に入りました。その前に、当日浜手と山手の公民館に配車したバスに添乗するという、皆さんとはちょっと変わった体験をしました。周知が足りず、乗ってくださった方はわずかですが、二色や東山で地域活動をされている方との交流があり、地域連携と日ごろよく口にする言葉を、まさに肌身で体感したようなひと時でした。分科会は、パネラーの方たち、進行の沼野委員、コーディネーターのお話は素晴らしかったのですが、場所（中ホール）的にも時間的にも参加者とのやり取りがほとんどなかったのが残念でした。全体のアンケートに、少数ながらも「もっとしんどい人となつなりたい」「大会は有意義だが、公民館には何かが欠けているのではないか」などの意見があり、まだまだ“公民館は余裕のある層だけを対象としている”という見方があるのではないかと感じました。今後もうこういうことを心にとめて継続しなければならないと思います。

西野館長：積極的に関わってくださった実行委員の方たちの努力が成果となって現れ、

本当に成功した大会だったと思います。職員も市民とともに作りあげる中で多くのことを学ばせていただきました。大阪府の公民館の最近の状況をみるにつけ、こういうことができる貝塚公民館の素地や条件というものを感じました。これらは何もしなくてもずっと保たれるのではなく、事業の企画や利用者との関わりの中で、絶えず努力して保たなければならない事です。成功をただ喜ぶのではなくきちんと総括をして、どんな形であれ、来年につなげることが大切です。

浮穴委員長：大変成功だったようですが、他に何かありますか。

竹内委員：講師の方に公民館のねらいをわかってもらうのは本当に大変なことなので、講師交流会は大切な取り組みです。同日開催だったとのことですがこちらの成果はどうですか。

西野館長：何年振りかで昨年度から行っています。前は昼の部、夜の部と行い参加された講師は全体の半分ぐらいでした。今回はこの日程しかとれず、三分の1ぐらいの方の参加でした。当初浮穴委員長を講師としてお迎えする予定でしたがご都合で無理でしたので、用意していただいた資料で私の方から現在の公民館をとりまく情勢など説明いたしました。講師の方からも何を問題視されているかなどを語ってもらいました。クラブ活動をする中で人が変わり、そういう人を見ながら講師自身も変わってゆく…そういう公民館活動がすばらしいという話もでした。

大西委員：講師の立場では言えないこともあり、講師にもいろいろな苦悩があります。家元制度や流派の中で活動される方もおり、そういう方の発言はなかったのですが、公民館とカルチャーセンターとの違いなどを理解はできても、微妙な立場に立たされているのではないかなと思いました。

浮穴委員長：講師交流会の資料として用意した資料に「3000 個のおにぎり」という私の書いた文章があります。富田林市のとなりの羽曳野市で、阪神淡路大震災のときにいちはやく公民館利用者たちが動いて、3000 個のおにぎりを作って届けた話です。日頃趣味を楽しんだり自分の学習意欲を満足させたり「消費者」としてしか活動していないように思えた人たちが、立派に「生産者」として社会に発信した…そのことに感動して書いたものです。

本日（3月11日）は東日本大震災発生から3年にあたりますので、発生時刻の午後2時46分に黙とうをいたしました。

案件2 今年度事業の総括について

西野館長から説明

竹内委員：貝塚公民館の特徴である「子育て支援事業」や「文化事業」を軸に公民館な

らではの地域連携事業を進めてもらいたいと思います。ひとつ気になったのは「子育て支援事業」のところで“「子育て支援センター」とのすみ分け”という表現があったことです。すみ分けはしないで、連携や協力関係を保つ方がいいです。下手にすみ分けて“これはこっち、あれはあっち”となるより、どっちにいても話が通じる状態の方が市民に喜ばれるし、ひいては子どものためになります。

沼野副委員長：地域連携事業の最初のきっかけとして例えば「出前寄席」などはいいと思いますが、その後の段階としてはどう考えておられますか。ややもすれば、「公民館で1回は無料でやってくれるらしい」という事のみが広まったりします。

西野館長：単に町会館の場所を借りて事業を行うという事ではなく、その前段の町会役員会議にも入り、公民館事業を理解してもらうことと、いっしょに協力して行うことを呼び掛けます。寄席自体は1回きりの事業として終わっても、そこから別のことでのつながりも生まれます。「前にこんなことをしましたよね」というところから糸口になり、地域の課題解決のために動いている人との接点を探っていけるとと思います。

浮穴委員長：きっかけづくりですね。

大脇館長：地域版の公民館ニュースを、町会に配布の依頼に行くときに、ただ「お願いします」と置いてくるのではなく、必ず担当の役員さんにお会いして「公民館はこんな事をしているので利用してください」と公民館事業を説明したり、その地域で困っている事をきいて公民館で何か力になれる事はないかななどをききます。年に1回で、また担当の人は変わるかもしれませんが、ずっと公民館から来てくれているのだなと思ってもらえますので、こういう形でつながりは続いていくと思っています。

沼野副委員長：浜手の「オトナ」シリーズは面白いと思います。19 時開始でもまだきついと思う人は多いでしょうが、このシリーズを継続して新たな市民層の開拓をめざしてください。

案件3 春の公民館タイムズ原稿から新年度講座について

(事務局化からの説明)

- ・おおまかには、表紙が三館全体に関わること 2 ページ目は浜手の記事、3 ページ目は山手の記事、4 ページ目は中央の記事だが、表紙には、特にアピールしたいこととして、中央公民館まつりと山手の「貝塚まちなかアートミュージアム」についても載せた。それで表紙に載せきれなかった三館共通部分については、2～3 ページの下段に載せているが、三館共通のことだとはっきりわかるように修正する。
- ・中央から・・・新規講座として多胎児の親からのリクエストで「まめっこ room」
・「貝塚子育てネットワークの会」との共催講座について、前期の具体的内容が決まったので今回紙面を割いている。
- ・浜手から・・・「消費増税を乗り切る！」「オトナのニッポンシリーズ」「コドモ防災塾」

についての説明と「クラブ共催講座」の意味（クラブ体験との違い）

- ・山手から…表紙の「貝塚まちなかアートミュージアム」について

大西委員：最初「貝塚まちなかアートミュージアム」の記事を見た時、公民館タイムズは秋にも発行されるのに、なぜ 11 月の行事を春タイムズに載せるのだろうと思いました。今の説明で、アート作品の募集締め切りが 4 月末だから、という理由がわかりましたが、その部分をもっと強調しないと、私のように感じる人は多いと思います。

沼野副委員長：「公民館の利用について」の記事は開館時間や休館日を事務的に載せているだけですが、それを載せつつも、公民館ってどんなところ…集い、学び、結ぶ場所であるとか、まちづくりの拠点であるとかを柔らかく書けばよいと思います。

浮穴委員長：今から修正可能な部分はなおして、わかりやすく読み手に伝わるような紙面づくりをこころがけてください。

次回審議会 平成 26 年 6 月 24 日(火) 14:00～